

児童発達支援施設で、感覚統合の考え方を生かした保育の活動を企画し、実践する

渡辺ゼミ



感覚統合の考え方について学んだ上で、児童発達支援施設で、障害のある子どもたちに対する保育の活動を学生たちが企画し、現場の先生方の助言もいただきながら実施することができた。

活動内容

12月4日

学生たちは、児童発達支援施設の午前中の活動に参加した。朝の会、体操、集団療育の時間を見学させていただいた。当日出席していた5人のお子さんたちの様子を観察し、現場の保育士さんからも説明を受けながら、一人ひとりの個性や、「得意なこと」「苦手なこと」などを把握するように努めた。

1月17日

学生たちが作成した指導案を、事前に児童発達支援施設に持っていき、保育士の先生方から助言をいただいた。「手足を連動した動きの発達を促す」「バランス感覚を使った運動の発達を促す」を保育のねらいに掲げ、新聞遊びの後、丸めた新聞を節分の鬼に向かって投げるといった季節の行事も取り入れながら、30分間の活動を企画した（添付の指導案を参照）。

1月29日

児童発達支援施設で、学生が作成した指導案に基づく活動を実践した。新聞の折りたたみやバランス感覚などには個人差があり、初めはうまくできない子どももいたが、学生たちが個別にフォローしながら個々の力量に合わせたサポートを行っていた。その後、丸めた新聞紙を鬼に扮したダンボールや学生に投げるといった場面では、子どもたちの笑い声がひととき大きくなり、手足の動きを使ってボール投げに興じていた。時間配分などがうまくいかない場面もあったが、子どもたちの反応を見ながら柔軟に対応することの大切さを学ぶ機会になった。学びの機会を頂いただけでなく、ご指導・ご助言をいただいた児童発達支援施設の先生方には心より感謝申し上げます。

指導計画（部分・半日・一日案）（様式31）			
1月 29日 月曜日 天候	実習生名	施設名	
	指導担当実習生名	園児数 6名	欠席数 0名
クラス名	3-5歳児	園児数	欠席数
観る子どもの家	保育者の指し分ける ・基本的な生活習慣が身についている		
保育のねらい	手足を連動した動きの発達を促す（遠隔運動） ・バランス感覚（前庭覚）を使った運動の発達を促す	保育の内容	新聞遊び
時刻	環境構成	予想される子どもの活動	保育士の援助・配慮点
10:30	(用意する物) ・新聞紙 1自分 ・ビニール袋 ・段ボールで作った鬼	○新聞遊び ・新聞遊びの絵カードを見せる ・新聞紙を1人ずつ手渡しして置く ・新聞紙の上に片足で立つ ・新聞紙を必ず片足新聞紙を小さくしていく ・バランスを崩してしまってもよい	・指示が通るように、リーダーが遊びを進めていく ・見通しができるように、絵カードを見せながら活動を進める ・新聞紙を1人ずつ手渡しして置く ・新聞紙の上に片足で立つ ・新聞紙を小さくするとき、ゆっくり丁寧に ・片足で立つ時数を3秒と5秒の2回行う。子どものペースに合わせて秒数を数える ・「バランスを崩してしまってもよい」という言葉で、手をタッチしながら体を支えられるようにする ・バランスを崩してしまってもよいから、優しく声をかけ、楽しくできるように子どものペースで一緒にやる ・「バランスを崩してしまってもよい」という言葉で、手をタッチしながら体を支えられるようにする ・子どもと一緒に新聞紙を丸めて、その後の活動のきっかけを作る ・子どもと一緒に新聞紙を丸めて
11:40		・新聞紙を丸めて遊ぶ	
10:50			・新聞を丸める ・新聞紙を丸めることができない子がいたら、「小さくなってきたね」「もっと押し戻してみようか」と促しながら、アドバイスをし、一緒にやる ・新聞紙を丸めようとしていたら、丸めた新聞紙を丸められるように声をかける ・うまく投げることができない子がいたら、まず、できている事を褒め、その後、手本を見せ、声かけをしながら一緒にやる ・「その後何故か、新聞紙を丸めるように声をかける ・新聞紙を丸めて、投げると言うことの遊びの楽しさが実感できるようにする ・「今日は鬼を連れてきたよ」など、周りに興味を持てるような声かけをしながら鬼を登場させる ・投げ方が分かるように、まず鬼で鬼を見せる。 ・どこから投げればいいのかを視覚的に分かるように、鬼を新聞紙の上に置き、「新聞の外から投げようか」と声をかける ・投げた新聞紙が子どもにあたらないように、投げられる位置を確認しながら活動を行う ・鬼を倒そうとしてしまってもよいから、新聞紙を丸めることができるように声をかける
11:00		・新聞紙を丸めて遊ぶ	・子どもたちが楽しみな片づけられるように声をかける ・一人ひとりにビニール袋を渡して、新聞紙を丸めるようにする ・何をすればいいのかわからなくなっている子がいたら、一緒に片づける ・新聞紙を丸める ・新聞紙を丸めることができない子がいたら、「小さくなってきたね」「もっと押し戻してみようか」と促しながら、アドバイスをし、一緒にやる ・新聞紙を丸めようとしていたら、丸めた新聞紙を丸められるように声をかける ・うまく投げることができない子がいたら、まず、できている事を褒め、その後、手本を見せ、声かけをしながら一緒にやる ・「その後何故か、新聞紙を丸めるように声をかける ・新聞紙を丸めて、投げると言うことの遊びの楽しさが実感できるようにする ・「今日は鬼を連れてきたよ」など、周りに興味を持てるような声かけをしながら鬼を登場させる ・投げ方が分かるように、まず鬼で鬼を見せる。 ・どこから投げればいいのかを視覚的に分かるように、鬼を新聞紙の上に置き、「新聞の外から投げようか」と声をかける ・投げた新聞紙が子どもにあたらないように、投げられる位置を確認しながら活動を行う ・鬼を倒そうとしてしまってもよいから、新聞紙を丸めることができるように声をかける